Mottainai
私と環境

倉嶋康
ジャーナリスト

©2018 年 4 月

もったいない　がまんする　おもいやり　(NASL スローガン)

特集　自然は　闘える相手ではない

44 歳の時に訪れた　人生の転機

東京の新聞社で国会担当記者として堅物だった私は、あることから地球と人間に対する見方が一変して開発志向型記者から自然環境保護型記者に転向しました。

黒潮をイカダで漂流 34 日間

民俗学者柳田國男の「日本民族の祖先は南方からも来た」という学説を立証する企画でフィリピンに渡り、竹でイカダを作ってフィリピン人と乗りました。黒潮の流れにのっていたら本当に日本に漂着するかという実験です。３４日間の漂流の末なんとか無事に鹿児島に漂着しましたが、この間台風に巻き込まれて水も食料も流されて生死の境を経験しました。

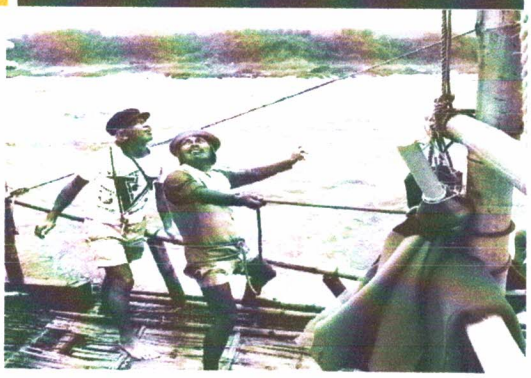
そして自然というものは闘う相手ではなく、許されてちっぽけな人類が存在しているのだと身に染みてわかり、欺瞞と虚栄の世界を取材することに嫌気がさして辞表を提出しました。しかし慰留されて地方記者を希望し、自然の豊かな信州の支局長で再出発しました。４４歳の時です。

環境特使として米国ソルトレーク市へ

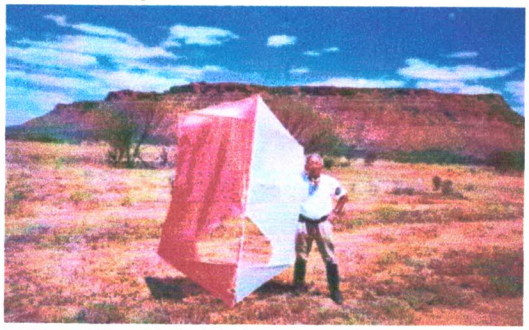
長野冬季オリンピックの時に依頼されて「環境に優しいオリンピックを」という親書を次回開催地の米国ソルトレーク市へ届けました。石油などが発生する Co_2 が地球温暖化を促進しないよう、自転車で走り、帆船で太平洋を乗り越えました。これがきっかけで自転車には５つの効用があることを提唱しました。それは「健康、環境、交通、観光、活性化」で、**５K** と呼びました。その思想のもと、市民団体 **NASL** を組織して無料貸し自転車「みどりの自転車」を長野県で始め、環境大臣賞を受賞しました。

マータイさんに「もったいない」を教える

私のいた新聞社が招いた国連平和大使ワンガリ・マータイさんが来日した時、私は全日空ホテルで単独会見し、NASL スローガンの「もったいない　がまんする　おもいやり」を話しました。彼女は喜び、**「もったいない」**は世界共通語になりました。



フィリピン・ルソン島から日本まで。途中には激しい海流として船乗りたちに恐れられている「魔のバシー海峡」などがあり、死の淵をすれすれに流れている怖さでした。



漂流で風の魅力(魔力？)にとりつかれて、定年後から凧揚げに打ち込み、世界 25 ヵ国の辺地に遠征。オーストラリアとチベットでは二つの国際記録を樹立しました。凧士名は*海渡博士*。Web.「凧のひみつ」の著作権を持っています。